

# 荒川南部土地改良区における多様な人材の参画

～ 多面的機能活動組織との連携による若手理事登用 ～

## 荒川南部土地改良区

所在地：栃木県那須烏山市  
面積：82ha 組合員：146人  
総代：-人（総代制未導入）  
理事：12人（うち50歳代未満2名、  
女性1名）  
監事：2人  
職員：2人（R8.1.1現在）



## 若手理事登用までのポイント

### 若手理事の登用に当たり工夫したこと

当土地改良区が位置する那須烏山市においては、若い世代の都市部への流出が著しく、若手の農業者が非常に少ないことから、まずは理事候補となる若手農業者を発掘する手法を検討しました。

検討の結果、多面的機能活動組織と連携の上、田んぼの生き物調査やひまわりの植栽活動等のイベントを開催し、地域住民等の集客を図った上で、土地改良区の活動等について周知を行うなど、地道な活動を続けてきました。



生き物調査の様子

### 登用するうえで苦労したこと

上記のような活動を続ける中で、候補者を選定するに至ったものの、候補者の考えとして「理事の大半を年配の方が占める中で、どのように活動を行ったら良いのか」といった不安が大きく、なかなか良い返事がもらえませんでした。土地改良区の活動等について丁寧に説明するなど、粘り強く説得した結果、最終的には理事就任を承諾いただいたわけですが、こういった不安の払拭には苦労しました。

## 若手理事登用までの経緯

R2以前	理事会等で複数回話し合い、若手理事の登用を検討
R2以降	理事候補者を選定するため、多面的機能活動組織と連携の上、各種イベントを開催し、候補者の情報等を収集（多面組織のイベント自体はH20より開催）
R2.11	候補者に対して、理事就任を依頼
R3.11	若手理事1名を登用
R7.11	若手理事1名を登用（合わせて女性理事1名を登用）

## 若手理事登用による効果

### 若手理事を登用して変わったこと

まず目に見えた効果としては、当土地改良区では多面的機能活動組織と連携して定期的に農道や水路等の除草作業を行うのですが、若手理事や女性理事が加わることで、当該除草作業の参加意欲や効率が大幅に向上しました。また、これ以外にも理事会において新たな視点での意見が出され、これにより活発な議論がなされる等、様々な効果があったと思います。



ひらの まさはる  
**平野 正晴 さん**

R3.11に41歳で理事（員内）に就任。現在2期目。  
普段は造園会社に勤務する傍ら、理事として土地改良区運営に参画。兼業農家であり、小規模にナス等を栽培。

### Q. 理事の仕事内容は？

営農検討委員として担い手への農地集積・集約化、営農計画の策定等を推進しています。

### Q. 理事を引き受けたきっかけは？

組合員の高齢化により、理事のなり手が減少する中において、理事長や前任者より就任の依頼があり、また、自分自身が将来の地域営農の方向性等を考えていく上で良いきっかけになると思い、引き受けました。

### Q. 実際に理事を経験してみてどうですか？

当初は土地改良区についてほとんど理解していませんでしたが、理事として業務に従事する中で、徐々に土地改良区の必要性、施設管理の重要性等を理解することができました。

ふしなみ やすお  
**藤浪 康雄 さん**

R7.11に41歳で理事（員内）に就任。現在1期目。  
サラリーマン（鉄網製造業）として働く傍ら、理事として土地改良区運営に参画。兼業農家であり、小規模にネギ等を栽培。

### Q. 理事の仕事内容は？

用排水調整委員として地区内の需要に応じた水配分の調整等を行っています。

### Q. 理事を引き受けたきっかけは？

自分自身は正直、本格的に農業をやってきたわけではないのですが、地元集落の理事経験者等から打診され、また、多少興味もあったことから、引き受けました。

### Q. 土地改良区における若手理事登用をどう思いますか？

農業者の高齢化が進展する中で、将来にわたり施設の保安全管理を適切に行っていくためにも、若手理事の登用（管理者の育成）は必要だと思います。  
土地改良制度や農業に精通したベテラン農業者と若手農業者をバランスよく登用していくことが重要だと思います。

# 浜北土地改良区における多様な人材の参画

～ 将来的な組織運営を見据えた若手理事の登用 ～

## 浜北土地改良区

所在地：静岡県浜松市浜名区  
面積：1,455ha 組合員：5,592人  
総代：50人  
理事：17人（うち50歳代未満3名、女性2名）  
監事：4人  
職員：4人（R7.7.1現在）



## 若手理事登用までのポイント

### 若手理事登用のきっかけ

今現在、先頭に立って土地改良区運営を行っている我々もいつかは引退します。このような中、例えば50年後の将来を見据えた場合、土地改良区を背負って立つ新たなリーダーの育成が必要です。私自身、40歳代から理事を務めていたこともあり、その必要性が身に染みていたことから、トップダウンで若手理事の登用を進めました。



藤原理事長

### どのように候補者を見つけたか

理事候補者は地域で農業に積極的に取り組む若手農業者が望ましいと考えていました。このような中、今回登用された3名とも地元で御活躍される有名な農業者であり、正に理想的であったことから、理事就任を依頼しました。

### 若手理事に期待すること

登用から間もないため、まずは土地改良制度をしっかりと勉強してほしいと思います。その上で、可能であれば2期、3期と継続して理事に就任いただき、様々な経験を積んだ上で、いずれは地域農業者、土地改良区のリーダーとして御活躍されることを願っています。

## 若手理事登用による効果

### 若手理事を登用して変わったこと

登用から間もないため、はっきりとした効果の確認は難しいものの、若手が出席することにより理事会の雰囲気が明るくなったように感じます。今後、若手理事の経験値が上昇することにより、理事会、総代会において活発な議論が行われ、組織が成長するといった効果を見込んでいます。



藤原理事長、平松理事、倉田理事  
及び事務局の皆さん

ひらまつ みほ  
平松 美帆 さん

R7.6に理事(員内)に就任。現在1期目。御主人が代表を務める「ひらまつファーム」にてミニトマトの栽培等を行う傍ら、理事として土地改良区運営に参画。



### Q. 理事の仕事内容は？

現在1期目であり、土地改良区の業務内容等について鋭意勉強中です。正直、今は先輩理事からノウハウ等を学んでいる状態です。

### Q. 理事を引き受けたきっかけは？

理事長より就任依頼があり、様々な農業関係団体の役員経験のある主人とも相談した結果、「多少なりともお役に立てれば」と思い、引き受けました。

### Q. 土地改良区における若手理事登用をどう思いますか？

将来にわたり適切に農業水利施設の保全管理を行っていくためには、先輩方に任せきりにせず、若いうちから土地改良区運営に携わっていくことが重要です。先輩方から様々なノウハウを学び、次世代へ引き継いでいくために、若手農業者の理事登用を推進していく必要があると思います。

くらた さとし  
倉田 聡志 さん

R7.6に理事(員内)として就任。現在1期目。(株)HSFarmの代表として会社経営を行う中、自身も農業者としてナスやキャベツなどを栽培。



### Q. 理事の仕事内容は？

平松理事同様、理事として何かするというよりは、まずは勉強といった状況です。徐々に経験を積み、いずれは土地改良区運営の中核を担っていきたくと思っています。

### Q. 理事を引き受けたきっかけは？

理事長より就任依頼があり、お話を聞く中で、その熱い思いに共感を持ったことから、引き受けることとしました。

### Q. 土地改良区における若手理事登用をどう思いますか？

先輩理事の方々もいつかは引退します。このような状況になった時に「誰も土地改良制度を理解していない」となった場合、施設の適切な保全管理を妨げることとなり、延いては地域農業の衰退を招くこととなるかと思っています。このような危機感を持って若手農業者自身が声を上げ、運営に参画することが重要だと思います。

## 若手理事登用までの経緯

R6以前 理事会で若手理事の登用を提案  
R6.4～R6.9 候補者の選定  
R6.6 候補者3名に対して理事就任を依頼  
R7.3～R7.4 候補者より内諾を得る  
R7.6 定款を変更し、理事2名増員（計17名）  
R7.6 若手理事3名を登用

平松理事（右）とひらまつファーム代表



←倉田理事（前列右2人目）と(株)HSFarmの皆さん

# 理事会の新陳代謝を図り、持続可能な運営体制を構築する

か ず え

主 計

土 地 改 良 区

所在地 ▶ 福井県福井市浅水町  
面積 ▶ 221.5 ha  
総会制  
理事 ▶ 13 人  
監事 ▶ 3 人  
職員 ▶ 1 人  
(R8.01.29現在)



若手理事の登用を進めようとする土地改良区へ、若手から言いたいこと！

固定観念を捨て、多様性を受け入れることが大切。若手理事を登用したら、急がず、見守り、育てること！



ほりうち けんた  
堀内 健太 さん

R 6 .4月に理事に就任。  
現在 1 期目の39歳。

- 20歳から父親とともに農業に従事し、その5年後に父親が引退し、組合員となる。
- 従業員は、熊田さん（右）、妻、バイト2人の4人。今年は法人化を予定している。



くまだ ともみつ  
熊田 智光 さん

R 2 .4月に理事に就任。  
現在 2 期目の39歳。

- 父親が他界し、農業を継いだ時に組合員となる。
- 就任当時は農事組合法人に勤務。現在は堀内さん（左）のもとで農業をしている。

ともに39歳。  
同年代理事がいる  
安心感と  
心強さ。  
地区のリーダー且つ  
窓口的存在。

Q 理事の仕事内容は？

A (2人) 農業用水施設の維持管理をするほか、理事は年に数回集まり、崩れた土手を直したり草刈りをしています。また、町内の農家から「ここが壊れている」と言われて、改良区に伝えたりと町内とのパイプ役にもなっています。

Q 理事を引き受けたきっかけや決め手は？

A (熊田さん) 町内の前理事から「町内から理事を1人出さないといけない」と話があり、高齢化が進んでいることもあり、自分が引き受けました。  
(堀内さん) 私は事務局長から話があり、他に受けてくれそうな人はいなかったので自分が引き受けました。同年代で2期目の熊田さんが居たので抵抗感はまったくなかったです。

Q 実際に理事を経験してみてどうですか？

A (2人) 就任前は、土地改良区の人たちはポンプ場を動かすなど、農業の基盤を支える重要な存在というイメージだった。  
(熊田さん) あまりにも大規模な工事内容、費用に驚くとともに自分に務まるのか不安になった。現在2期目だけどまだまだ不安はある(…笑)  
(堀内さん) ポンプ場を動かすだけの仕事じゃなかった(笑) 3カ月に1回程度会議があり、年に1〜2回、草刈等があるがそれほど負担には感じていない。  
(2人) 町内の意見をひとつにまとめるのは大変ですが、町内の人から相談されたり感謝されたり、整備された農地を見るとやりがいを感じます。

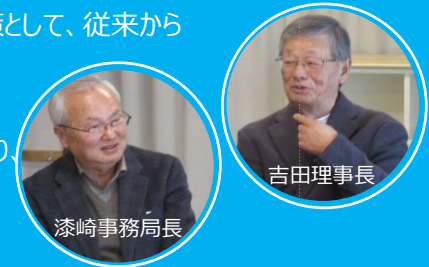
Q 若手理事を登用するために必要なことは？

A (2人) ベテラン理事との経験値の差を感じます。自分がまだ土地改良のことをあまり理解できていないので、話についていけないし、意見も出しづらい。財務諸表等の読み方が分からないので、理事長、事務局長ではなく、理事向けの研修会を設ける等のサポート体制の構築が必要だと感じます。

Q 土地改良区に若い世代の理事が加わることの意義やメリットは？

A (堀内さん) 10年後、20年後を前提で考えられることです。  
(熊田さん) ベテラン理事の知識やノウハウを次の世代に承継していくことだと思う。土地改良区に限らず、農業経営者自体が若い世代にバトンを渡し世代交代していかなければならないと感じています。

- 理事会の新陳代謝を促す方策として、従来から**定年制(73歳)**を設けている。
- 当地区は歴史的に**若者が組織・団体の中心**となっており、年齢が障害となることはない。
- 年齢を問わず有望な理事候補が各集落から選任されるよう、日頃から地域と情報を共有する等、継続的に働きかけを行っている。



Q 若手が継続的に関わるためにどんなサポートが必要ですか？

A 通常の理事会の議案は法律や定款、規約により定められた事項が大半であり、若手理事の日頃の思いと柔軟な考えを発言する機会としてマッチングしていない様子がありました。そのため、若手に積極的に発言してもらう機会を創出する意味で、委員会やPTのメンバーとして参画してもらっています。現在、女性理事登用についての委員会にも入ってもらっています。

Q 若手理事登用を推進する土地改良区へのアドバイスをどうぞ！

A 組織の活性化や変化に対応するためには、一人一人の能力向上を前提に組織の新陳代謝が不可欠です。「理事の定年制」や「多選禁止」など、仕組として理事が交代できるようにすることが重要です。

# いさしやまのじつて 伊佐市山野十曾土地改良区における多様な人材の参画

～ 地域の理事の声掛けから若返りが実現 ～

## 伊佐市山野十曾土地改良区

所在地：鹿児島県伊佐市大口山野971  
面積：378ha 組合員：695人  
理事：13人（うち50歳未満3名）  
監事：3人  
職員：1人

(R8.1.29現在)



左から  
井立田事務局長、成影理事、竹内理事  
前田理事、有郷理事長

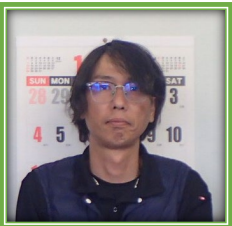
### たけうち みつし 竹内 三志 さん



- ・R7.4に41歳で理事に就任（1期目）
- ・理事に就任し日が浅いので理事の業務について勉強中。

〔農業経営〕 水稻3ha、ゴボウ80a  
カボチャ70a、ネギ60a

### まえだ やすつね 前田 康経 さん



- ・R7.4に42歳で理事に就任（1期目）
- ・圃場整備による大区画化などに取り組んでいきたい。

〔農業経営〕 水稻43ha、トマト20a

### なるかけ ともこ 成影 智子 さん



- ・R7.4に38歳で員外理事就任（1期目）
- ・男女共同参画の関係で話を受けた。土地改良区についての知識はほとんどなかった。

〔農業経営〕 夫婦で水稻10ha、畜産（牛）

## 若手理事登用までのポイント

### Q. どのように候補者を見つけたか？

事務局：事務局からは特別働きかけはしませんでした。竹内さんと前田さんは各選任区の前任の理事がお声掛けをされたようです。成影さんについては、男女共同参画の取組の一環で女性理事として声を掛け、理事に就任していただきました。

### Q. 若手理事登用に対する考えは？

理事長：私自身、現在50歳で理事は3期目です。理事の若返りは多様な意見を取り入れるために必要だと感じています。土地改良区という組織に若い方も理事として参加いただき、経験を積んで欲しいと思っています。若手理事に土地改良について説明するにあたっては、説明する側も勉強し直さないといけないので、知識がブラッシュアップされ、他の理事のスキルアップにもつながると考えています。

## 若手理事登用による効果（期待すること）

事務局・理事長：大規模に営農している農家が多い地区であり、今後圃場整備が必要だと考えています。圃場整備をすると、計画から事業完了まで年月を要しますが、若手の理事には長く事業と関わることで、円滑な事業の推進にも寄与していただけるのではないかと考えています。また、若手の理事3人は、これからの地域農業を担っていく方々ですので、新規事業や更新事業について、積極的に意見を述べていただくと、より地域農業の振興につながる土地改良事業が実施できるのではないかと感じています。

### Q. 理事の仕事内容は？

各理事：理事会への出席の他、各選任区で施設に不具合が発生した際の補修工事の立会や調整などが主な仕事です。

### Q. 理事を引き受けたきっかけやその時の気持ちは？

竹内理事：前任の理事から声を掛けられ、いずれは理事になることを予想していたこともあって就任しました。声掛けを頂いた時は、土地改良区という組織についてほとんど知識がありませんでした。

前田理事：前任の理事から声を掛けられ、理事に就任しました。土地改良区について詳しくは知りませんでしたが、理事になることに対し、抵抗感はありませんでした。

成影理事：男女共同参画の関係で声を掛けられ、家族からもやった方がいいと背中を押されたこともあり就任しました。土地改良区については、地区の水路の補修を行っている組織、という程度の認識でした。

# ひかわ 氷川土地改良区における多様な人材の参画

## ～ 地区の世代交代による若手理事登用 ～

### 氷川土地改良区

所在地：熊本県八代郡氷川町  
面積：1,428ha 組合員：1,212人  
総代：51人  
理事：25人（うち60代未満9人）  
監事：4人  
職員：5人

(R8.1.1現在)



### 理事プロフィール



宮崎理事(52)：員外理事（土地改良区組合員の妻）  
イチゴを使ったスイーツの販売を行っている。

益田理事(47)：員外理事（土地改良区組合員の妻）  
普及指導員などを兼務しており、元JA職員の経歴をもつ。

永田理事(49)：土地改良区組合員、トマトと米を栽培。

### 3名の理事・事務局長に聞いてみました

#### Q. 理事に就任したことによる心境の変化はあったか？

宮崎理事：土地改良区の存在は知っていましたが、改めて土地改良区の重要性を知りました。

永田理事：土地改良区の財務状況を把握したことで、賦課金に対する認識が変わりました。

#### Q. どのように候補者を見つけたか？

永田理事：役員改選に当たって、地区内で理事の世代交代について提案があり、地区の役員からお声かけがあったことから引き受けることとなりました。私の地区は若手の耕作者が多く、上手く世代交代できていると思います。

事務局長：員外理事については、事務局からお声かけしました。

普段から、地域の農業者、行政、関係団体（農委・農協など）と情報共有するなど連携をとっているおかげで、候補者はすんなりと見つけることができました。

#### Q. 若手理事登用により期待することは？

事務局長：地域の若い世代の意見を集約し、理事会などで発言してもらえると、土地改良区の運営や、今後の基盤整備にもいい影響があるのではないかと期待しています。

#### Q. 若手理事の必要性とは？

事務局長：高齢の方は事業に段々無関心になっていきます。そのため、今こそ地区の内外問わず若い方の声を聴いて、世代を超えて話をしていくことが必要だと思います。

#### Q. 理事への多様な人材の参画のために必要なことは？

永田理事：地区内外の女性や若者に対して、土地改良区には我々のような同世代の人がいることをもっと発信して、土地改良区が遠い存在ではないことを知ってもらうことが大事だと思います。  
また、地域として世代交代が上手くいくような仕組みづくりができればいいと思います。

益田理事：女性理事については、家族の理解がとても重要だと思います。

事務局長：候補者の方と話し、不安点や疑問点を取り除き、将来のために取り組むことの重要性を伝えることが必要だと思います。